

ID

氏名

年齢

科名

病棟

Nivolumab(2週毎)＋5FU
＋CDDP療法
《初日に5日分調製》

4週毎 コース予定

疾患名 食道癌

主治医 指導医 HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

スケジュール

		day1	day5	day15
オプジーボ(ニボルマブ)	240 mg/body	↓		↓
フルオロウラシル	4000 mg/m ² /5日	↓	 →	
	【800 mg/ m ² /日】			
シスプラチン	80 mg/m ²	↓		

- 【注意】 * シスプラチン投与時は1日の尿量が3000 mL以上になるよう、化学療法前日より輸液を行う
- * シスプラチン、ニボルマブはポンプを使用しないこと
- * 他剤使用時は、ニボルマブ投与前に血管確保用生食にてフラッシュすること
- * ニボルマブはインラインフィルター(0.2または0.22 μ m)を通して投与すること

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

- Day 1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル125 mg 1C 内服
- ① 生食 500 mLで血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② オプジーボ 240 mg + 生食 76 mL 点滴静注30分(100 mL/時間)
- ◎30分間あけて
- ③ 生食 500 mL + L-アスパラギン酸K 10 mEq + 硫酸Mg補正液 4 mEq
- 点滴静注120分(250 mL/時間)
- ④ Day 1～Day 6 フルオロウラシル + 生食1000 mL

側管より輸液ポンプにて点滴静注約120時間(10 mL/時間)

Nivolumab（2週毎）＋5FU＋CDDP療法＜初日に5日分調製＞

⑤ パロノセトロン 0.75 mg ＋ デキサメタゾン9.9 mg ＋ 生食 20 mL 側管静注

⑥ シスプラチン ＋ 生食 250 mL 点滴静注120分(250 mL/時間)

* 生食 250 mLをバッグから前もって抜く

⑦ マンニトールS 300 mL 点滴静注 30分(600 mL/時間)

⑧ 生食 500 mL ＋ L-アスパラギン酸K 10 mEq ＋ 硫酸Mg補正液 4 mEq

点滴静注 120分 (250 mL/時間)

⑨ 生食 500 mL 点滴静注 120分 (250 mL/時間)

⑩ オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)

⑪ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

⑫ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

⑬ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

Day 2 - 5

① デキサメタゾン6.6 mg (2 mL) ＋ 生食20 mL 側管静注

② ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

③ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

④ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

⑤ ソルアセトF 500 mL 点滴静注 80 mL/時間

Day 2, 3 アプレピタントカプセル80 mg 1×朝 内服

Day 2 - 4 オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)

Day 15

① 生食 250 mLで血管確保 維持(20 mL/時間)

② オプジーボ 240 mg ＋ 生食76 mL 点滴静注30分(200 mL/時間)

Nivolumab（2週毎）＋5FU＋CDDP療法《初日に5日分調製》

	コース					
	day 1	day 2	day 3	day 4	day 5	day 15
月日	/	/	/	/	/	/
オプジーボ 開始時刻	↓					↓
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→	
シスプラチン 開始時刻	↓					
確 認						

	コース					
	day 1	day 2	day 3	day 4	day 5	day 15
月日	/	/	/	/	/	/
オプジーボ 開始時刻	↓					↓
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→	
シスプラチン 開始時刻	↓					
確 認						

	コース					
	day 1	day 2	day 3	day 4	day 5	day 15
月日	/	/	/	/	/	/
オプジーボ 開始時刻	↓					↓
フルオロウラシル 開始時刻	↓	→	→	→	→	
シスプラチン 開始時刻	↓					
確 認						